

自立活動「自分を研究しよう」

1 単元の目標

【導入単元と終末単元の目標】

生徒	27項目	目標
A	3-(3)	他者の発表を通して、自分自身の行動の改善方法を考えることができる。
B	6-(2)	話し手の思いを受け止めながら話を聞くことができる。
C	6-(2)	根拠を持って自分の意見を伝えることができる。
D	6-(2)	相手の話を最後まで聞いてから自分の思いを伝えることができる。
E	6-(2)	文字や機器などを用いて、自分の思いを伝えることができる。
F	6-(2)	相手に伝えることを意識して話すことができる。

【個人の研究課題に関わる目標】

生徒	27項目	目標
A	3-(3)	自分自身の生活を見直し、見直しをもって生活できる。
B	3-(3)	計画的に行動するための目標の立て方を考え、実践することができる。
C	3-(3)	自分のすべきことを意識して、誘惑に負けずに生活できる。
D	2-(1)	イライラした時の気持ちの調整の仕方を確かめ、実行できる。
E	6-(1)	人前で話すコツを掴んだり、話しやすい環境を作り出したりできる。
F	6-(1)	表情や声の出し方に気を付けて話すことができる。

2 単元について

単元を貫く課題	単元導入時の指導	単元終末時の指導
より豊かな人生にするために、自分研究を進めよう。	1人1人が自分の良さと課題について振り返るとともに、「こうなれるといいな」という肯定的な未来を思い描かせる。	自分の発表に対する仲間からの意見や仲間の発表を通して、自分の考えについての深まりを言葉やイラストにしてまとめる活動を位置づける。

3 指導計画

次	時	・本時のねらい ◎課題
1	1	・自分自身の良さと課題について、6区分の観点（健康の保持、心理的な安定、人間関係の形成、環境の把握、身体の動き、コミュニケーション）から振り返ることができる。 ◎ <u>自分について研究しよう。</u>
	2	・前時にまとめた自分自身の良さと課題を見て、自分の人生を豊かにするために、「もっと伸ばしたいこと」や「解決したい課題」について考えることができる。 ◎ <u>どんな自分になりたいか考えよう。</u>
	3	・最も解決したい課題に名前を付け、研究テーマにすることができる。研究の仕方を理解できる。 ◎ <u>もっと楽しい人生にするための研究テーマを決めよう。</u>
	4・5	・研究してきたことを振り返り、伝わりやすさを意識してパワーポイントにまとめることができる。 ◎ <u>研究の中間発表会に向けて、自分の研究をまとめよう。</u>
	6・7 本時	・研究についての発表会を行い、建設的に意見を言い合うことができる。 ◎ <u>仲間の研究発表を聞いて、感じたことを伝えたり、助言したりしよう。</u>
2	8	・研究発表会を通して自分の実践内容を改善することができる。 ◎ <u>実践内容をレベルアップさせよう。</u>
	日常生活	・第8時に決定した実践を日常生活の中で行い、汎化をすることができる。
3	9	・実践を振り返り、相手への伝わりやすさを意識してパワーポイントにまとめることができる。 ◎ <u>研究発表会に向けて、自分の研究をまとめよう。</u>
	10・11	・研究についての発表会を行い、建設的に意見を言い合うことができる。 ◎ <u>仲間の研究発表を聞いて、感じたことを伝えたり、助言したりしよう。</u>

4 本時の指導の構え

本時、学ぶ楽しさを味わった生徒の姿は、「仲間の抱える困難に共感し、肯定的に意見を交流する姿」である。本学級にはそれぞれに異なった特性や課題のある6名の生徒が在籍している。それぞれの生徒は、より豊かに気持ちよく生活していきたいという願いをもっている。しかし、これまでの生活の中での失敗経験の多さから、その課題を乗り越えることは難しいとも感じている。教師からの働きかけにより、改善の仕方について考え、取り組んではきているものの、頑張り切れないことが多い。その原因には、取り組む内容と自分の課題の克服のつながりが見えず、「これを乗り越えればよりよい生活ができる」という肯定的な未来を思い描けていないことがあると考えられる。

そこで本単元では、改善したい自分の困り感について、仲間とともに研究・分析する「自分研究」を行う。単元の出発点は「これができるようになったらどれだけ良いだろう」という肯定的な未来を思い描くことから始め、その課題について研究していくことで、取り組みに必然性が生まれ、自分の弱さと前向きに対峙できると考えた。

本時は、それぞれの研究について交流する時間である。本学級の生徒は、昨年度から自立活動の時間にクラス会議を継続して行っている。その活動の中で、相手を否定することなく思いを伝える練習をしてきた。その成果を生かし、本時では発表を聞きながら課題に取り組む姿を肯定的に捉えて伝え合い、お互いを尊重し合い、励まし合うことで、肯定的な自己理解を深めることができると考える。

本時のねらい

- ・相手意識をもって発表することができる。
- ・仲間の発表を共感的に聞き、否定することなく意見を言うことができる。

本時の展開 (7 / 11) 6 - (2) 言語の受容と表出 3 - (3) 自己の理解と行動の調整

		A	B	C	D	E	F	
ねらい		自分の研究に生かすという視点で仲間の発表を聞くことができる。 3-(3),6-(2)	反応しながら最後まで相手の話を聞くことができる。 6-(2),3-(3)	仲間の良さ・改善点について具体的に話すことができる。 6-(2),3-(3)	最後まで話を聴いてから発言することができる。 6-(2),3-(3)	仲間の発表を共感しながら聞き、自分の意見をもつことができる。 6-(2),3-(3)	話す速さや声の大きさに気を付けて、相手に伝わるように話すことができる。 6-(2),3-(3)	
過程	学習活動	<ul style="list-style-type: none"> ・予想される生徒の姿 □個に対する教師の指導等 						□全体への教師の指導 等
導入	1 自分のでめあての確認をする。	・仲間の発表を自分の研究に生かすというめあてをもつ。	・反応しながら最後まで相手の話を聞くというめあてをもつ。	・仲間の良さ・改善点を具体的に話すというめあてをもつ。	・最後まで話を聴いてから発言するというめあてをもつ。	・仲間の発表を聞いて、自分の意見をもつというめあてをもつ。	・議題に沿って話す、相手が聞き取りやすい速さで話すというめあてをもつ。	□前時までの経験を生かしてめあてを定める姿を価値付ける。 □「話し合いの約束」を掲示し、聞くときの態度について確認する。
	2 前回の発表会の内容を振り返り、課題を設定する。	課題 「仲間の研究発表を聞いて、感じたことを伝えたり、助言をしたりしよう。」						
展開	3 研究について発表する。	【聞き手として】 ・意見を言う時の声が小さくなってしまふ。 □声の大きさのモデルを示し、今出している自分の声の大きさを確かめられるようにする。	第2発表者 【話し手として】 ・聞き手が理解しているかどうかを考えず自分のペースで話してしまう。 □話し方の約束を示す 【聞き手として】 ・聞く時間が長すぎると感じ、伏せてしまふ。 □必要に応じてクールダウンを行う。	【聞き手として】 ・発表の内容にうなずきながら話を聞くことができる。 □うなずく姿を価値付け、全体に広げる。 ・内容を理解せず何となく反応する。 □そのように考えた理由を尋ね、根拠を明確に話せるようにする。	第1発表者 【話し手として】 ・要点を説明し忘れてしまふ。 □パワーポイントに短い言葉で要点を書き記しておく。 ・受けたアドバイスについて、否定されたと感じてしまふ。 □必要に応じて、クールダウンを行う。 【聞き手として】 ・発表の途中で自分の意見を言い始めてしまふ。 □聞き方の約束(最後まで聞く)を示す。	第3発表者 【話し手として】 ・言葉が出てこずに発表をすることができない。 □事前に録画した発表を再生する。 【聞き手として】 ・自分の意見を声に出して伝えることができない。 □まずは文字で書き、その後教員と一緒に話すようにする。	【聞き手として】 ・話し手の発表に対して批判的な言葉で反応してしまう。 □「反応の言葉のモデル」を示し、批判にならない言葉に言い換えられるようにする。 ・意見を言う時に早口で意見を言ってしまふ。 □「話す早さのモデル」を示し、今の自分の話す速さを確かめられるようにする。	高まり・深まりを求める場の工夫 トーキングスティックを用いることで、全員が発言できるようにする。
	4 仲間の発表について、感じたことや助言を伝える。	○○さんの△△というところは自分にも生かしたい。	発表内容について共感してもらえたことが嬉しかった。	○○さんの意見の△△というところがよかった。	相手の話を最後まで聞くことができた。	○○さんのつらい気持ちがわかった。協力できることを協力していきたい。	○○さんを批判しないように、話すことができた。	高まり・深まりを実感できる終末の工夫 新たに気付いた仲間の思いについて共感できたことや、自分の研究に生かせることについてまとめる。
終末	5 仲間の発表について共感したことや自分研究に生かせることについてまとめる。	自分の研究に生かすという視点で仲間の発表を聞くことができる。	反応しながら最後まで相手の話を聞くことができる。	仲間の良さ・改善点を具体的に話すことができる。	思ったまま口に出すのではなく、最後まで話を聴き、相手の気持ちを考えて発言している。	相手の話を最後まで聞き、自分の意見をもつことができている。	議題に沿って話をする事ができる。相手が聞き取りやすい速さで話し、自分の思いを伝えている。	
	評価規準							